

10/23 (木) の行事

## 【石狩振興局プレスリリース】

報道発表資料の配付日時 10月9日(木) 10時00分

発表項目 (行事名)	「令和7年度(2025年度)北海道福祉のまちづくり賞」受賞者の決定及び表彰式の開催について 受賞者：胆振、渡島、後志、石狩管内		
記者レクチャー のお知らせ	(実施日時)	発表者	
		発表場所	
概要	<p>北海道福祉のまちづくり賞は、福祉的配慮に優れた事例を広く道民や関係事業者を紹介し、普及啓発を図ることを目的として、「北海道福祉のまちづくり条例」が施行された平成10年にスタートし、今年度で27回目を迎えました。今年度も、公共的施設部門・活動部門・福祉用具部門の3部門で募集を行い、福祉・建築・市民活動など各分野の有識者5名で構成する「北海道福祉のまちづくり懇談会」(座長：北翔大学 佐藤 克之 名誉教授)における意見交換や現地確認等をもとに、次のとおり受賞者を決定し、表彰式を執り行います。</p> <p>1 受賞者 別添「受賞者一覧」のとおり</p> <p>2 表彰式 (1) 日時 令和7年(2025年)10月23日(木) 14:00~15:00 (2) 場所 ホテルポールスター札幌 4階 ライラック (札幌市中央区北4条西6丁目) (3) 賞状授与者 保健福祉部長</p>		
参考	<p>関連行事として、受賞者の紹介を含むパネル等を展示する「北海道福祉のまちづくり展」を開催します。</p> <p>(1) 日時 令和7年(2025年)10月28日(火)、29日(水) 10:00~16:00 (2) 場所 北海道庁本庁舎1階 特設展示場B</p>		

報道(取材)に当たってのお願い	取材を希望する場合は、行事の前日までに下記担当宛て御連絡ください。		
他のクラブとの関係	同時配付	道政記者クラブ	
	同時レター	胆振、渡島、後志、石狩の各(総合)振興局記者クラブ	

担当(連絡先)	保健福祉部福祉局地域福祉課(担当者：課長補佐 福地) TEL ダイヤルイン 011-204-5267 内線25-604		
---------	----------------------------------------------------------------	--	--

# 「令和7年度(2025年度)北海道福祉のまちづくり賞」受賞者一覧

## 1 公共的施設部門

番号	施設名称	所在地	応募者	受賞者	
				施設所有者	設計者
1	コミュニティプラザはーもにー	室蘭市母恋南町2丁目22番1号	社会福祉法人 室蘭言泉学園	※応募者と同じ	有限会社 はんざぎ建築事務所

## 2 活動部門

番号	個人・団体名称	所在地	応募者	受賞者
1	木古内町ボランティアアセンター 有償ボランティア「わんつか」	上磯郡木古内町字本町150番地1	社会福祉法人 木古内町社会福祉協議 会	※応募者と同じ
2	特定非営利活動法人 きょう・ここ	虻田郡京極町字京極223番地	特定非営利活動法人 きょう・ここ	※応募者と同じ
3	八百カフェ学生実行委員会	札幌市南区芸術の森1丁目	八百カフェ 学生実行委員会	※応募者と同じ

## 3 福祉用具部門

受賞者なし

令和7年度（2025年度）北海道福祉のまちづくり賞 受賞理由

1 公共的施設部門（1件）

<b>施設名</b> コミュニティプラザはーもにー
・所在地 室蘭市母恋南町2丁目22番1号 ・所有者 社会福祉法人 室蘭言泉学園 ・設計者 有限会社はんざき建築事務所
<b>受賞理由</b> 【明るい陽ざしの中で地域交流と社会的支援の輪が広がる新しい拠点】 段差がほぼなくシンプルな平面構成と動線の施設で、トイレ、手洗い場、浴室などが建物中心に位置しているため、どこからも近くわかりやすい福祉的配慮があり、建物の出入口にはゆるやかなスロープにより移動の安全性が確保されており、災害時の避難場所としても対応できる。 大きな窓から日差しが注ぐイベントホールやテーブルの高さが変えられるカフェがあり、地域密着型のコミュニティとしての地域住民の交流の場や障がい者への理解と支援の輪が広がることが期待される施設。

## 2 活動部門（3件）

<b>活動団体名</b> 社会福祉法人木古内町社会福祉協議会 木古内町ボランティアセンター 有償ボランティア「わんつか」
・所在地 上磯郡木古内町字本町 150 番地 1
<b>受賞理由</b> 【生活の「わんつか」な困りごとを手助けするボランティア】  「ご近所付き合い」が減り、地域の助け合いが減ったことから、雪かきや草刈りなどの「わんつか（「少し」の方言）な困りごと」に、住民の多世代からなるボランティア活動者が「わんつか」な手助けをすることで、地域住民の支え合い活動による社会参加を促す活動。 謝礼に町内商品券を配付するという点で地域活性化につながっていることや、無償では頼みにくい住民の困りごとに対して、上手に仲介して住民同士の支え合いの輪として広げていることが高く評価された。
<b>活動団体名</b> 特定非営利活動法人きょう・ここ
・所在地 虻田郡京極町字京極 223 番地
<b>受賞理由</b> 【福祉の拠点を目指した住民の住民による住民のための支え合い】  「支えあいステーション」という、支える人・支えられる人の区別がない仕組みで、会員同士が柔軟に支援しあう活動を実施しているほか、子どもは無料の食堂を開催することで居場所づくりの取組なども実施。 町民が「我が事」として意識することを目指し、子どもの居場所づくりや地域の孤立高齢者など、様々な課題を解決するための工夫された取組であり、平成 30 年から地域住民が主体となり取組を継続している点から、他の地域のモデルとなり得る自立性のある活動として高く評価された。
<b>活動団体名</b> 八百カフェ学生実行委員会
・所在地 札幌市南区芸術の森 1 丁目 札幌市立大学 芸術の森キャンパス
<b>受賞理由</b> 【老若男女の参加によるソーシャルキャピタルの醸成を目指したマルシェ】  コロナ禍で地域活動が縮小する中でも、大学生と地域住民の交流拠点として始まり、地域の中で支え合うケアコミュニティの形成などを目標に、高齢者、障がい者、学生、地域住民の誰もが楽しみながら運営できるマルシェを開催することで、参加者の自立とウェルビーイングを促す活動。 来場者も出展者も楽しめるように学生の柔軟なアイデアを活かし、また、医療分野・福祉分野の視点を取り入れた点が、住民への波及性、将来性に優れた取組として高く評価された。